

令和5年度 江戸川区立松本小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○やさしい子 ◎考える子 ○やりにく子 ○健康な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>50周年記念事業を通して、学校、保護者、地域が一体となることができた。様々な取組を通して、子どもたちが落ち着いて生活できる環境を整えることができた。 <課題>児童の学習の基礎・基本の定着や主体的・対話的で深い学びとなる授業スタイルの確立など、家庭との連携も含めた学力の向上において課題となることが多かった。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
				取組	成果	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得 ・家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学力向上プロジェクト(朝学習、ランチスタディ等レベル別個別指導)の確立 ・東京ベータシールドを活用した既習事項の習得 ・ミライードを活用した予習・復習の取組 ・「江戸川っず study week」による家庭学習の推進	・毎学期実施する診断テストによるCD層の減少・学習に関するアンケート項目の自己評価において、肯定的に回答する児童の割合80%以上 ・学習に関するアンケート項目「予習」で学習に取り組む児童の割合80%以上 ・「江戸川っず study week」による家庭学習の割合80%以上	A	A	A	・子どもたちのやる気を引き出すことができたのは、先生方の努力だと思うので、継続してほしい。 ・校長先生の姿勢がみんなに伝わっているのではという思い。 ・「国語」の課題とのことなので、暗唱の取組のように異なる取組を開発している。	・5年生中心に取組んだ学力向上プロジェクトは良い結果を出すことができた。全ての学年で、朝学習として取り組めるようにしていくことで、更に学力向上を図っていく。 ・「江戸川」の国語の学力向上プロジェクトに合わせ取組を考え、実施していく。
		<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・日常的に調べる姿勢の定着 ・区立図書館との連携 ・学校応援団による「心のごはん活動」の連携と充実	・調べる学習コンクール「読書科コンクール」の作品発表 ・読書科ノートを活用した単級学習の推進 ・研修会の実施(教員向け及び保護者、ボランティア向け)	・調べる学習コンクール「読書科コンクール」に応募する児童の割合80%以上 ・全クラスにおいて読書科ノートを使用した授業の実施 ・学習に関するアンケート項目「本を読むのが好き」「調べるのが好き」において、肯定的に回答する児童の割合80%以上	A	B	A	・夏休みの調べる学習が定着したのほども良いことである。日常へにもさらに生かせるようになってほしい。 ・家庭での読書の啓発をさらに行ってほしい。学校応援団のボランティアを生かしていくことも一つであると思う。
体力の向上	<指導力向上> ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業スタイルの確立	・「松小授業スタンダード」を活用した日常的な授業研究の実施 ・校内研究授業において、全学年授業研究実施	・月に1回以上授業チェック表を活用した振り返りを教員が実施 ・4年7回の校内研究実施	A	B	B	・授業は子どもたちにとって、楽しいものであってほしい。そのための研究を続けてほしい。 ・今年度、日常的な授業研究の足場が少なかった。それをさらに高めて、全員の授業力を高めていく。	・今年度、日常的な授業研究の足場が少なかった。それをさらに高めて、全員の授業力を高めていく。
		<運動意欲や基礎体力の向上> ・体力向上を図る日常的な取組の充実	・運動量が確保された体育の授業の実施 ・休み時間等を利用したびんタイムの実施 ・体力テストの結果による個々の体力目標の設定	・学習に関するアンケート項目「体育や外遊びが好き」において、肯定的に回答する児童の割合80%以上 ・のびのびタイム45分以上実施 ・ランニング月間やなわとび月間を行い、児童の運動への関心を高め、体力向上につなげる。	A	B	A	・怪我が多いのも、体力不足と関係があるのではないかと日常的に運動する機会を設けていく必要があると思う。 ・ランニングや縄跳びを自分の目標をもって取り組むことはとても良いと思ふ。今後も継続してほしい。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた広に広がる指導の実施・充実 ・特別支援研修の実施 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副読文交流、交流及び共同学習の実施・充実	・生活指導夕会において情報交換による児童理解の促進 ・特別支援研修の実施 ・特別支援校内委員会の充実	・毎週金曜日の実施 ・毎学期1回の実施 ・SC、支援系、SSW等との連携の実施 ・支援を要する児童への個別支援ができたと報告する教職員の割合90%以上	A	B	A	・学校全体で連携が取れていることを感じることで、それが子どもたちに良い影響となっている。 ・様々なことに対する理解教育は、今後も継続していく必要がある。	・様々な連携については、継続していくと共に、さらに必要であると思われる場合は広げていく。 ・一部の学年で実施した理解教育を、全ての学年で行えるようにしていく。
		・バリアビリティとの交流、障害理解を深める授業等の実施 ・ポッチャによるバドミントンの理解と交流	・4年生によるバリアビリティの交流、障害理解授業の実施 ・3年生、4年生においてポッチャを体験する児童が80%以上	A	B	B	・実際に体験することは、何れにも残るのではないかと考える。継続することで、さらに定着していくのではないかと。	・来年度も計画的に、より多くの学年で体験を通じた理解教育を継続していく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用 ・いじめの未然防止・早期発見・早期解決	・SC他関係機関と連携した行内体制の確立 ・不登校対策の実施・充実 ・hyper-QUの活用 ・いじめの未然防止・早期発見・早期解決	・SCの週1回の情報交換会の実施 ・学校生活に関するアンケート項目の「いじめは絶対してはいけない」に関して、肯定的に回答する児童の割合が100% ・1回目のhyper-QUの結果より、2回目において満足度・内容意識の向上	A	B	A	・いじめについては、絶対ダメという姿勢を全ての大人が示し続けていくことが大切である。その姿勢が子どもに伝わっていると思う。 ・定期的にいじめに関するセミナー研修を実施した。 ・保護者のアンケートでは、いじめへの取組に対して肯定的でない意見が6%あった。	・いじめについては、今後も全教職員が同じ姿勢で取り組めるよう共理解を図る。いじめを無くすため、異学年で対応するために、縦組を徹底していく。 ・hyper-QUをさらに活用できるように、実施時期や結果の活用方法を考える。
		・松本スタンダード「人として」の徹底 ・学期1回の「松っず週間」による基本的な生活習慣の充実 ・基本的な生活習慣の確立 ・SNS家庭ルール」の作成と学期1回の確認週間の実施	・「学校生活に関するアンケート項目「学校が楽しい」で、肯定的に回答する児童の割合が90%以上 ・「学校生活に関するアンケート項目の挨拶に関して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上 ・「学校生活に関するアンケート項目「SNS家庭ルールを守っている」で、肯定的に回答する児童の割合が70%以上	A	B	B	・「学校が楽しい」で肯定的回答が90%であった。 ・「すんずんであいっす」ですすすす肯定的回答が91%であった。 ・「家庭ルールを守って、使っていますか」で肯定的回答が72%であった。 ・SNSに関するトラブルが多く、対策を実施したが「家庭との連携を高め、未然対策が確立した」。	・松本小学校がずっと大事にしていた「人として」を常に意識させることは、良いことだと思う。掲示するだけでは、あまり変わっていないので、さらに工夫をしてほしい。 ・SNSについては、今後もしっかりと注意喚起を行ってほしい。家庭との連携が大きな鍵になっていく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校ホームページの週1回以上の更新 ・年4回の学校公開の実施	・学校関係者評価、保護者アンケートの学校の情報発信について、肯定的に回答する保護者の割合が80%以上	A	A	A	・ホームページは今後もどんどん活用して、学校のことを知らせてほしい。	・ホームページは保護者の声も聞いて、よりよいものにしていく。 ・学校公開は、今年度同様実施していく。
		<学校関係者評価の充実> ・江戸川区教育施策に基づいた取組項目の設定 ・学校関係者評価の充実	・事前に学校関係者評価の内容を学校評議員に提示し、課題や取組を明確にして学校参観を実施し、評価につなげる。	A	B	A	・学校評議員に事前提示をして、関係者評価の取組に学校参観を実施した。江戸川区の教育施策を受けて、重点項目を設定し、取り組むことができた。	・評議員委員会だけでなく、日常的に学校のことを聞くことができた。 ・今後もより学校評議員の方との連携を深め、よりよい学校づくりに取り組んでいく。
特色ある教育の展開	<地域の一員としての自覚の育成> ・要校を醸成する教育活動 ・計画的な地域学習の実施 ・防災教育の実施	・「実なる木」活動の充実 ・近隣の小・中学校、福祉施設、病院と連携した教育活動の実施 ・PTAと連携した災害対策教育の実施	・学校生活に関するアンケート項目の地域に対して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上 ・学校生活に関するアンケート項目の災害に対して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上	B	B	B	・PTAや地域との防災訓練ができたのは、とても良かった。実際に災害が起こった時に、協力できるような活動を整えていくことが何よりも大事であると思う。 ・防災訓練をより地域と密着したものにしていく。	・実なる木の木の学習をより子どもたちが自主的に活動できるようにしていく。 ・防災訓練をより地域と密着したものにしていく。
		<自然の恵み> ・心を合わせた全ての生き物の命を大切にすることを育てる	・学校生活に関するアンケート項目の「生き物とお話をする」という項目において、肯定的に回答する児童と命尊重の割合が90%以上 ・肯定的に回答する児童と命尊重の割合が90%以上	B	B	A	・生き物とお話をすることは、好きですが肯定的回答が80%であった。 ・動物の命は生命尊重に必要であるので肯定的回答が88%であった。	・うさぎがなくなってしまうのは残念だが、その時の子どもたちの様子を開くと、命の学習は効果が出ているのではないかと。
特色ある教育の展開	<学校統合に向けた取組> ・2年後の統合に向けた取組の実施	・鹿骨小学校との合同遊びの実施 ・間伐式実行委員会による準備 ・統合に向けた環境の整備	・各学年1回以上の合同遊びの実施 ・2回の教職員における統合会議の実施(8月以降2回程度)	B	B	B	・3学期に委員会を立ち上げる。 ・合同遊びは、今後計画して実施する。	・低学年で実施することができた交流をさらに深めていく。 ・今年度の反省を生かして、さらに良い交流を計画し、実行していく。
		<働き方改革> ・教員の勤務環境の改善 ・PTAの仕事を削減	・週に2回以上の定時退勤を実現した教職員70% ・1月の残業時間が80時間を超える教職員30人 ・保護者のアンケートにおいてPTAの仕事内容の削減に対して、肯定的に回答する実感を保護者37.0%であった。	A	B	B	・PTAの仕事内容を削減に対しては、PTA役員による話し合いでは肯定的意見が出ている。 ・定時退勤目標として教職員が70パーセント以上。残業時間が80時間を超える教職員は、2学期は多い減が2人いた。	・PTAについては、鹿骨小と連携して新たなものを生み出してほしい。 ・教員の働き方改革も大切が、魅力とどんと伝えてほしい。